

第361回産業事情検討会（3月30日開催）

一帯一路構想が創る新経済圏とイノベーションの拡大

一帯一路日本研究センター 副代表／日本大学生物資源科学部 教授 朽木昭文氏

前例を破る産業政策の成功

国の発展はイノベーションにかかっています。中国は規制が強すぎるからイノベーションが起こらない。それがかつての定説でした。ところが、実際にはイノベーションが起きています。

1978年からどのような産業政策が取られてきたか。改革・開放政策の第2期にあたる1986年から92年は積極的に外資を導入しました。以降、海外からの投資を呼び込み、電気、電子、自動車の産業集積が中国各地にできました。

この成功体験から、自由貿易試験区によって、「夢よ、もう一度」となるわけです。

2004年くらいから労働集約型産業が限界に来ており、中国政府は産業の構造を変える方向に舵を切りました。2013年に上海自由貿易試験区をつくり、ここで今までやってこなかったサービス産業に、外資を導入し、成長させるということに成功しました。

アジアにおいては、日本以外で、国主導の産業政策が成功したのは韓国におけるサムスン、ヒュンダイ等の財閥育成くらいしかなかったと言っていいでしょう。ところが中国は国が育てた産業が世界の中で次々に大きくなっています。

アジア各国は産業政策として日本の投資を活用しました。1980年代、三菱自動車が進出し、マレーシアでは国民車プロトンが生まれました。タイは日本の投資を積極的に受入れ、今では日本の系列システムに準ずる自動車産業のサプライチェーンが形成されています。2000年代のベトナムではタンロン工業団地にキャンオンが出ていくと、日本から100社くらいの部品産業が同時に出て行って瞬く間に産業集積が生まれました。

日本のアジア進出を搾取だという批判もありましたが、実際にはその国に産業集積をもたらし、雇用を創出し、進出国の発展に貢献してきたと言えます。しかし、アジアの産業政策が実現したのはここまです。つまり、日本からの産業移転（それに伴う技術移転）の受け皿になるところでとどまっています。

私たちは中国では違う展開を見てきました。日本企業は、当初、金型産業が育たないと技術流出は起こらないし、中国が日本の技術は盗めやしないと甘く見ていた節があります。一方で、中国は、搾取して頂いてもいいし、輸出して頂いてもいい。しかし、10年、20年後には日本企業の技術を全部吸い取ったら出て行ってもらい、中国企業を育成する。そうはつきりと語っていたのです。

この言葉通りになりました。電気・電子産業ではハイテク領域を除き、殆どの日本企業は出ていくことになるでしょう。電気自動車に関して言えば、日本の方が出遅れているのが明白です。

中国が強気なのは、外資導入を梃子にした産業政策の成功の歴史への自信とともに、広州、深圳を中心とした南でイノベーションが起こり、騰訊（テンセント）、ZTE等の会社がどんどん生まれ、どんどん伸びていることへの手ごたえがあるからです。

グローバル企業ランキングに続々とランクイン

世界上位500企業の国別の数（売上高ベース） 年別企業数					
	2004	2007	2013	2014	2016
アメリカ	189	162	132	128	134
中国	15	24	89	95	103
日本	82	67	62	57	52
フランス	20	38	31	20	29
韓国	11	14	14	17	15

売上高ベースの世界上位500企業の国別の数は、
2004年に中国は15社、日本は82社でした。2016

年には中国が 103 社、日本は 52 社で、中国の半分になっています。こうなれば、日本はもはや怖くないし、対等以上だという想いがあります。

103 社中で北京に存在する企業の 95%にあたる 56 社が国の資本によるものですが、その 56 社中の 52 社が国有です。中国の国有企業は国営企業とは違います。国有企業は、国が株を持って、マネージメントは民間人が行います。国有企業の社長は、日本企業の社長よりもはるかに利益追求型の思考回路の持ち主です。ベトナムの国営企業の経営状態が悪いのは、政治家が経営し、利益をちゃんと追求するのが難しいからです。

深圳からも売上上位 500 社に 6 社入っています。そのうちの 5 社が民営です。

フォーチュン・グローバル 500 では、中国の IT 企業は、華為(ファーウェイ)83 位、京東(ジンドン)261 位、阿里巴巴(アリババ)462 位、騰訊(テンセント)478 位が出てきています。

**フォーチュン・グローバル 500
中国のIT企業(2017)**

華為(ファーウェイ)	●83位
京東(ジンドン)	●261位
阿里巴巴(アリババ)	●462位
騰訊(テンセント)	●478位

華為

2011年	●352位
2013年	●315位
2014年	●285位
2015年	●228位
2016年	●129位
2017年	●83位

中国企業はスピードが速い。騰訊(テンセント)は微信(ウィーチャット)で一気に 13 億の客を捕まえました。ファーウェイは、2011 年 352 位でしたが、わずか 6 年で 83 位まで猛烈なスピードで上がってきています。